

巻末資料 3

各 CDR モデル事業体の年次評価

- ・ 3-1. 説明用紙（令和 3 年報告より引用） 161-163
- ・ 3-2. 質問用紙（令和 3 年報告より引用） 164-169
「チャイルド・デス・レビューの検証会議に関する実態調査 / ご協力いただく皆様へ」
- ・ 3-3. 回答用紙「修正版」（令和 3 年報告より引用） 170-171
- ・ 3-4. 5 自治体の年次評価 172-176

R3年度厚労科研沼口班: CDR実装に関する実態調査

(分担: 山岡)

CDRの成果を見える化
(言語化・整理) したい...

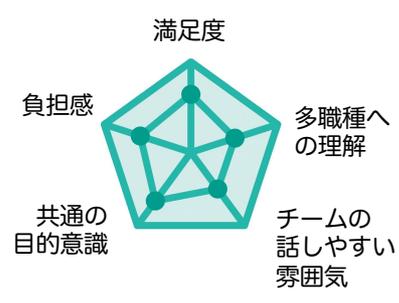
チームや個人の到達程度を
確認する (成長具合を自己
評価できる) ようなもの
→ やって良かったにつな
がるように

CDRやって
良かったこと
ってなんだろう
...



- 理解が深まった?
- 連携が良くなった?
- 予防策を提言できた?

...



調査の目的

1. CDRに関わっている人が感じている満足感や改善点について測定する。
2. CDRを運営に関する組織の準備体制、多職種連携の実態を明らかにする。
3. 今後の効果的なCDR実施に向けた提言に繋げる

調査対象・時期・方法

【対象者】

- CDRモデル事業に関与している9道府県（北海道・福島・山梨・群馬・三重・滋賀・京都・高知・香川）において、実際にCDRの運営や多職種検証会議に参加している関係者（1県あたり10～20名程度、合計80～100名程度?）
- これからCDRの導入や死亡事例の多職種検証会議の開始を準備している関係者（千葉・愛知など）（20～30名程度?）

【対象時期】

- 第1回調査：多職種検証会議前、あるいは10-11月頃。
- 第2回調査：多職種検証会議後、あるいは来年1-2月頃。

【方法】

- 準備会議・多職種検証会議で集まった時に質問紙を配布、無記名回答、その場で回収

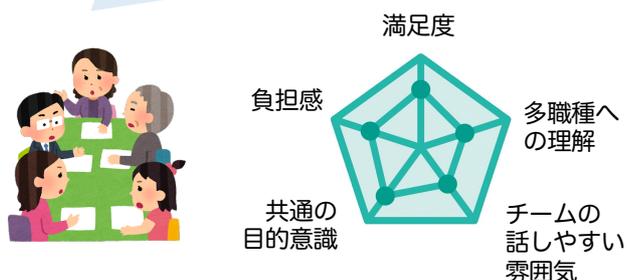
調査結果の示し方

- 個人の受け止め方、チームの雰囲気・協働度：
県ごとに全体の平均点、もしくは職種別の平均点
全国平均と比較した自地域の特徴をつかむこともできます
- 第1回目・2回目の結果の比較
検証会議の実施によって / 検証会議の回数を重ねることによって、
変化するもの・しないもの
どういった点を今後改善していきたいか
- 個人が特定されないようにまとめます

結果の使い方（イメージ）

- 各チームで、現状把握、今後の改善点の議論などに使ってもらえたら嬉しいです
- 何点以上が良い、というようなカットオフ値を設定するつもりはありません
- 各チームで、**どんな検証会議に今後していきたいか？**という話し合いの資料になればと思います

- 今回の検証会議では満足度と理解度が、前回より高くなりました！
- どんな風にしたら、もっと話しやすい雰囲気になると思いますか？
- どのなところに、負担感を感じていますか？



チャイルド・デス・レビューの検証会議に関する実態調査

ご協力いただく皆様へ

近年、子どもの死亡を検証する制度、チャイルド・デス・レビュー（以下、CDR）の整備が進んできており、CDR の体制構築・実装の必要性が広く認識されています。CDR を導入し運営していく際には、多職種で情報を収集し検討するための効果的な多職種連携体制の構築が重要となります。

効果的な CDR の運営には、チームとして新しい事業に取り組む準備ができているか、変化を受け入れる雰囲気は整っているか、関わっている人はやりがいを感じているかなどの側面が関係しており、それらを評価した研究はあまりありません。そのため、CDR の運営・準備などに携わっている皆様に、CDR に関わってみて感じることなどを調査させていただきたいと思っております。この調査に全て回答するのに、およそ 5-10 分程度かかります。この調査への参加は自由であり、答えたくない部分はスキップしていただいても構いません。結果は個人が特定されない形で集計されます。

本調査は厚労科研沼口班（わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究）の一環として実施しており、いただきましたご意見をもとに、今後のCDR の導入・運営・普及などの支援体制を充実させていたための知見を報告・提言させていただく予定です。

お忙しい中恐縮ですが、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

【注意事項】

- 回答用紙に記入し、回答用紙のみ提出してください。
- オンラインで回答していただける場合は、こちらのQRコードにアクセスして回答してください。（その場合は紙の提出は不要です。）



もしくは <https://forms.gle/3gPreepDV2odBW1e6> にアクセスください。

調査に関するお問い合わせ先：

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
国際健康推進医学分野 プロジェクト助教 山岡祐衣
〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45

電話： 03-5803-5188 （対応可能時間 平日 9:00～17:00）

Fax: 03-5803-5190

E-mail: yamaoka.hlth@tmd.ac.jp

問1 携帯電話の下4桁を教えてください

※ 2回目以降のアンケートの突合のために使用します。個人は特定しません。

問2 性別を教えてください

問3 年齢を教えてください

※ 以下、当てはまるものに番号を回答用紙に記載してください

問4 職種あるいは勤務先を教えてください

1. 医師（小児科）
2. 医師（救急科）
3. 医師（法医学）
4. 医師（その他：記載してください）
5. 看護師
6. 保健師
7. 心理士
8. 児童福祉機関：上記に当てはまらない人
9. 警察
10. 検察
11. 救急救命・消防
12. 保育園・幼稚園
13. 小学校・中学校・高等学校
14. 行政職員（都道府県）：上記に当てはまらない人
15. 行政職員（市区町村）：上記に当てはまらない人
16. その他（記載してください）

問5 上記の職種における勤務年数はどの程度ですか？

1. 2年未満
2. 2年～5年未満
3. 5年～10年未満
4. 10年～20年未満
5. 20年以上

問 6 CDR の個別検証に検証委員として参加したことがありますか？

(当てはまるもの1つ)

1. 一度もない
2. はい、1回だけある
3. 2～4回ある
4. 5回以上ある
5. わからない
6. オブザーバーとして参加したことがある

問 7 CDR の概観検証に検証委員として参加したことがありますか？

(当てはまるもの1つ)

1. 一度もない
2. はい、1回だけある
3. 2～4回ある
4. 5回以上ある
5. わからない
6. オブザーバーとして参加したことがある

問 8 勤務している都道府県はどちらですか？

1. 北海道
2. 福島県
3. 山梨県
4. 群馬県
5. 三重県
6. 滋賀県
7. 京都府
8. 香川県
9. 高知県
10. その他（記載してください： _____)

問 9 あなたの都道府県での CDR の運営状況をわかる範囲で教えてください。

(当てはまるもの1つを選んでください)

1. 個別検証も概観検証も実施している
2. 概観検証のみ実施している
3. 個別検証のみ実施している
4. 現在どちらも実施していないが、準備中である
5. その他（記載してください： _____)
6. わからない

問 10 CDR に関する会議（個別検証または概観検証、準備会議も含む）に
参加して、どのように感じていますか？

以下の項目について、それぞれの点数を 回答用紙に記載してください

1(全くそう思わない)・2・3・4・5・6・7・8・9・10(非常にそう思う)点

1. 会議に満足している
2. 会議は今後も続けていくべきである
3. 会議に今後も参加したいと思う
4. 会議に参加するのは時間的に負担が大きい
5. 会議に参加するのは心理的に負担が大きい

問 11 死亡事例の検証会議（個別・概観検証含む）について、回答してく
ださい。

検証会議に参加してみて、どのように感じていますか？

1(全くそう思わない)・2・3・4・5・6・7・8・9・10(非常にそう思う)点

※検証会議に参加したことがない方は、0 と記入してください

以下の項目について、それぞれの点数を 回答用紙に記載してください

1. 死亡に至る時間的経過が理解できた
2. 医学的なメカニズム・原因が理解できた
3. 家族を取り巻く社会的・心理的な要因が理解できた
4. 司法機関や司法制度について理解ができた
5. 福祉機関や福祉制度について理解ができた
6. 多職種の価値観や判断基準が理解できた
7. 原因を検証するために必要な情報を得ることができた
8. 具体的な予防策を検討することができた
9. 同死因を複数検討することで、傾向を理解することができた
10. 地域全体における死亡事例の全体像を理解することができた

問 12 あなた自身やあなたの都道府県の CDR に関わっている人たち（道府県や事務局・検討委員・関係者など、以下、CDR チームと呼びます）について、CDR の導入・実施においてどのように感じますか。

1(全くそう思わない)・2・3・4・5・6・7・8・9・10(非常にそう思う)点

※ 実施前のチームの方は、準備会議等の雰囲気について教えてください

※一度も参加したことがない方は、0点 と記入してください

1. 私は、自分の専門性を用いて、チームでの議論に貢献できている
2. 私は、他の職種の人がわかりやすい言葉で説明できている
3. CDRの準備・検証会議への参加について、事前に必要な情報が得られている
4. CDR の準備・検証会議への参加に関して、職場の理解が得られている
5. CDR の活動は、より良い社会の実現につながると思う
6. CDR チームのメンバーは、共通の目的に向かって協働している
7. CDR チームのメンバーは、互いの価値観や意見を尊重している
8. CDR チームのメンバーは、建設的なコメントやフィードバックを提供している
9. CDR チームでは、各メンバーがそれぞれの職種の専門性を発揮できている
10. CDR チームは、変化を起こすためにお互いに協力しようとしている

問 13 あなたの都道府県の CDR（個別検証または概観検証）では、下記の死亡事例について、どの程度、議論が十分になされていると思いますか。

1(全く十分ではない)・2・3・4・5・6・7・8・9・10(とても十分である)点

※一度も参加したことがない方は、0点 と記入してください

※ 実施前チームの方は、検証のための準備がどの程度できていそうかを教えてください

1. 病死（内因死）
2. 交通事故による死亡
3. 交通事故以外の事故による死亡（溺水、転落など）
4. 児童虐待・ネグレクトが疑われる死亡
5. 保護者以外の加害による死亡（他殺）
6. 予期せぬ突然死
7. 学校・幼稚園・保育園などでの死亡
8. 自殺
9. 死産・出生直後の院外死亡・ 嬰兒遺棄
10. その他の死因

以下の点について、回答用紙に 自由にご意見を記載してください

問 14 CDR (準備会議・個別検証・概観検証) の議論の中で良かった点について、教えてください。特に、参加する前に想像していたことと違った部分があったら、教えてください。準備中の場合は検証の準備を進めていて感じた良かった点について教えてください。

問 15 CDR (準備会議・個別検証・概観検証) の議論の中で大変だった点について、教えてください。特に、参加する前に想像していたことと違った部分があったら、教えてください。準備中の場合は検証の準備を進めていて感じた大変だと感じた点について教えてください。

問 16 CDR をすすめる上で、これからどうしていきたい、どうあってほしいなど、考えている・感じていることがありましたら、何でも結構です。自由にご自由に意見を聞かせてください。

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

普段より CDR の活動にご尽力いただき、感謝申し上げます。

今後とも子どもの死亡の予防のために、どうぞよろしく願いいたします。

回答用紙

※ こちらのみ提出してください

回答日	年 月 日
問1. 携帯電話(下4桁)	
問2. 性別	1. 男 2. 女 (○をつけてください)
問3. 年齢	才
問4. 職種	
問5. 勤務年数	
問6. 個別検証の参加経験	
問7. 概観検証の参加経験	
問8. 都道府県	
問9. 都道府県のCDR運営状況	

問10. 会議の満足度 (準備会議・検証会議も含む) 1(全くそう思わない)~10(非常にそう思う)点

1. 満足している	
2. 今後も続けていくべき	
3. 今後も参加したい	
4. 時間的に負担が大きい	
5. 心理的に負担が大きい	

問11. 検証会議の理解度 0(検証会議経験なし)、1(全くそう思わない)~10(非常にそう思う)点

1. 死亡に至る時間的経過が理解できた	
2. 医学的なメカニズム・原因が理解できた	
3. 家族を取り巻く社会的・心理的な要因が理解できた	
4. 司法機関や司法制度について理解ができた	
5. 福祉機関や福祉制度について理解ができた	
6. 多職種の価値観や判断基準が理解できた	
7. 原因を検証するために必要な情報を得ることができた	
8. 具体的な予防策を検討することができた	
9. 同死因を複数検討することで、傾向を理解することができた	
10. 地域における死亡事例の全体像を理解することができた	

CDR

実施状況 アンケート

2022年度
【自治体A】

いつもCDR活動にご協力いただき、ありがとうございます。

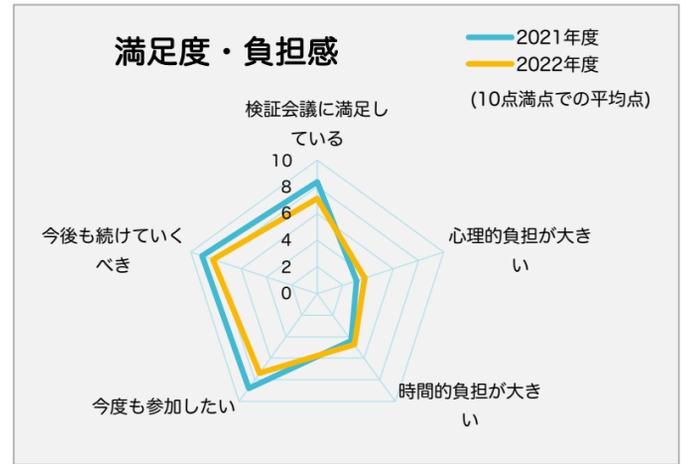
今回の参加者【8名】よりご回答をいただきました

※2021年度のアンケートの回答（19名）と比較しています

厚労科研沼口班（わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究）にて
2023年3月作成

1. CDR会議の満足度や負担感について

- アンケートに回答してくださった皆様の満足度は高かったです（平均7.1点）
- 今後も続けていくべきが最も高い点数でした（8.3点）
- 時間的・心理的負担感の点数は、5点未満です。



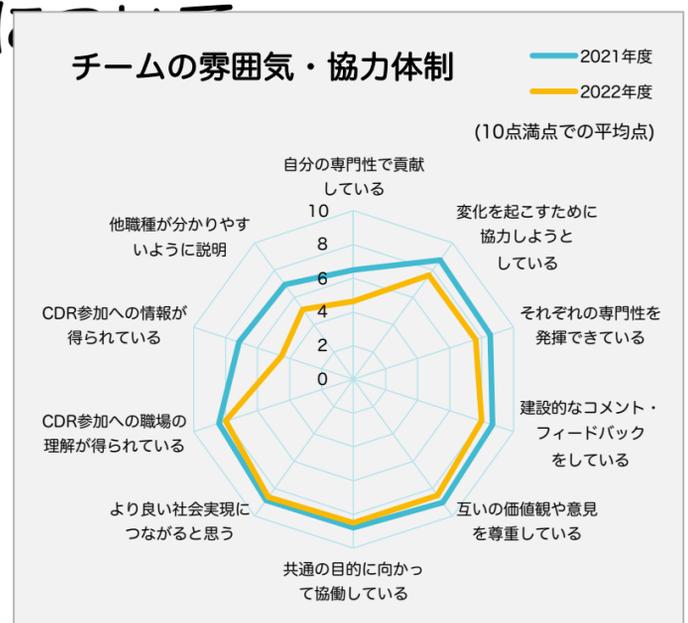
2. CDR会議による事例への理解度について

- 今回最も理解度が高かったのは、「多職種の価値観や判断基準」でした
- 時間的経過、社会心理的な要因が理解できたと答えている方も多かったです。
- 全体的に、去年よりも少し点数が低くなっています（回答数が少ないため参考程度にしてください）



3. CDR会議の雰囲気について

- 雰囲気でも平均点が高かったのは、「より良い社会実現につながると思う」でした
- 他職種の価値観や意見の尊重、共通の目的に向かって協働している、という点数も高かったです
- 専門性の貢献、わかりやすい説明、情報が得られているの点数が少し低くなっています。



【良いところ・大変なところ・今後への声】

- 様々な社会福祉制度からアプローチできる事がわかった
- 関係機関が情報提供や検証会議への参加に協力的であったことがよかった
- 情報が不足しており、議論が先に進まない場面が何度もあった。もっと、情報が入手できれば、もっと具体的によりよい検討の場になると思う。
- 何らかの方法で、もう少し情報が得られると、もっと議論が深められると思います。

今後ご協力のほど、よろしくお願いします！！

CDR

実施状況 アンケート

2022年度 【自治体B】

いつもCDR活動にご協力いただき、ありがとうございます。

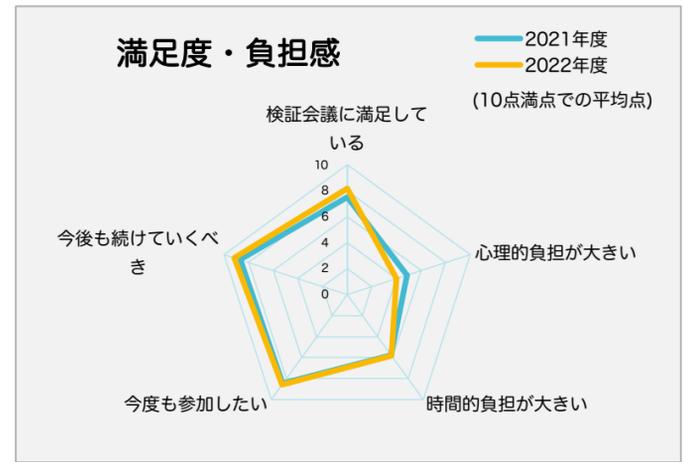
今回の参加者【12名】よりご回答をいただきました

※2021年度のアンケートの回答（22名）と比較しています

厚労科研沼口班（わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究）にて
2023年3月作成

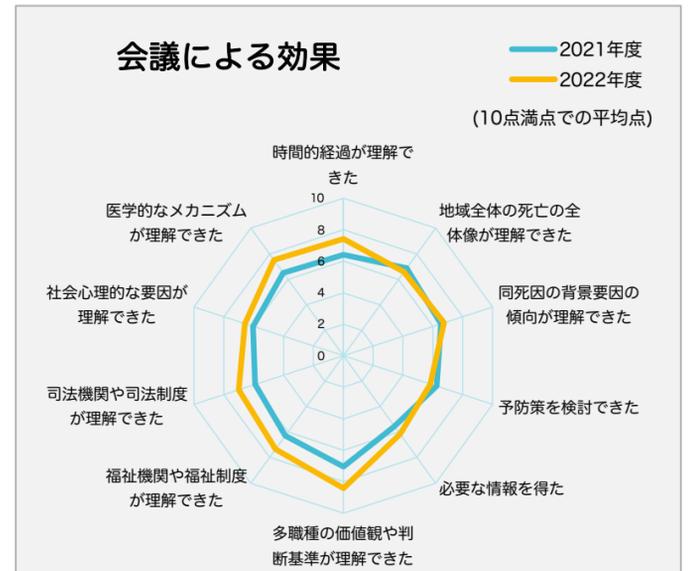
1. CDR会議の満足度や負担感について

- アンケートに回答してくださった皆様の満足度は去年より少し高かったです（平均 8.2点）
- 今後も続けていくべきが最も高い点数でした（9.2点）
- 心理的負担感の点数が昨年度よりも低くなりました



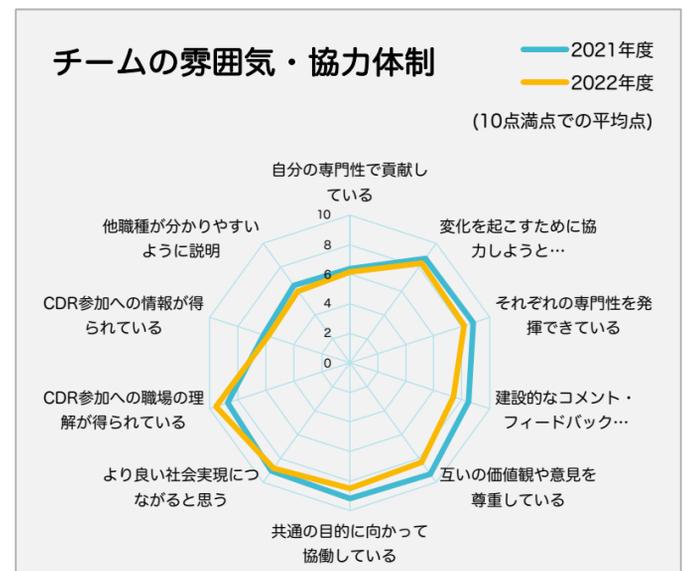
2. CDR会議による事例への理解度について

- 今回最も理解度が高かったのは、「多職種の価値観や判断基準」でした
- 時間的経過、医学的メカニズムが理解できたと答えている方も多かったです。
- 全体的に、去年よりも点数が高くなっています



3. CDR会議の雰囲気について

- 雰囲気でも平均点が高かったのは、「CDR参加への職場の理解が得られている」でした
- よりよい社会実現になる、共通の目的に向かって協働している、という点数も高かったです
- 去年と同様に、全ての点数が6点以上と高めでした。



【良いところ・大変なところ・今後への声】

- 各専門分野により視点が違うことが、より事例を重層的にみることが出来るし、各々の現状と限界がみえる
- 不慮の死に対する自身の意識が変わりました
- 心理的負担が大きい。開催時間が遅く、会場が遠いため、移動の負担が大きい。
- 自殺事例の情報の少なさの中で、検証する難しさ。あまりにも可能性があり過ぎて意見できない。多くは仮定の話になってしまい、予防策が浮かばない。
- すべての関係機関が集まって検証できるわけではないし、特に家庭環境については踏み込めないケースが多いので、完全な情報が集まる事例は少ない。その点の相互理解と、それでもできる範囲で検証するという意識の共有を徹底して、批判的にならないよう進められるのが理想だと感じています。
- ここ2年ほぼ自殺事例検証。会議では、環境や支援策を検討しているが、子ども達自身の力をつける（自尊心を育む）（ある意味の自身を守るための知識と力）プライベートゾーン含め、体も心もこんな状態になったら放置せず相談する等、是非教育現場で考えて欲しい。

今後ご協力のほど、よろしく申し上げます！！

CDR

実施状況

アンケート

2022年度 【自治体C】

いつもCDR活動にご協力いただき、ありがとうございます。

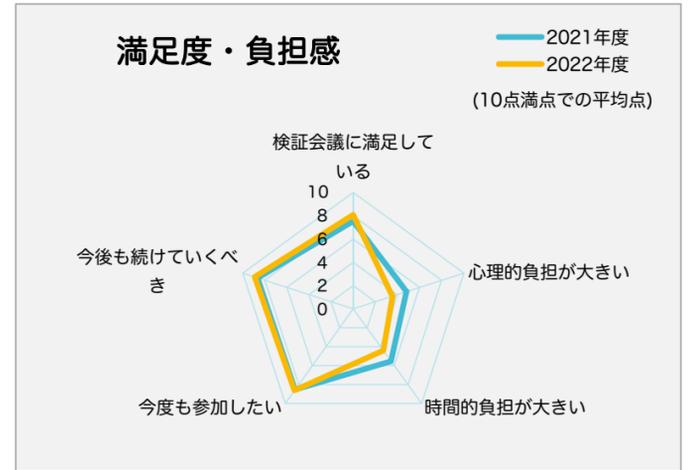
今回の参加者【13名】よりご回答をいただきました

※2021年度のアンケートの回答（15名）と比較しています

厚労科研沼口班（わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究）にて
2023年3月作成

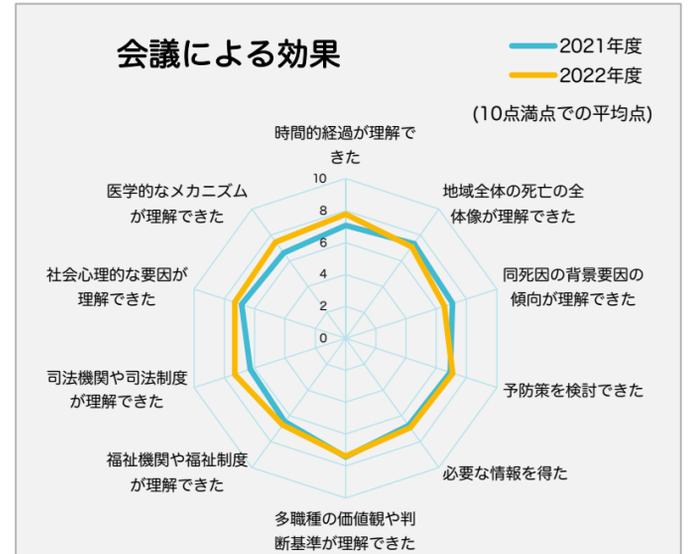
1. CDR会議の満足度や負担感について

- アンケートに回答して下さった皆様の満足度は去年より少し高かったです（平均 8.1点）
- 今後も続けていくべきが最も高い点数でした（8.9点）
- 時間的・心理的負担感の点数が昨年度よりも低くなりました



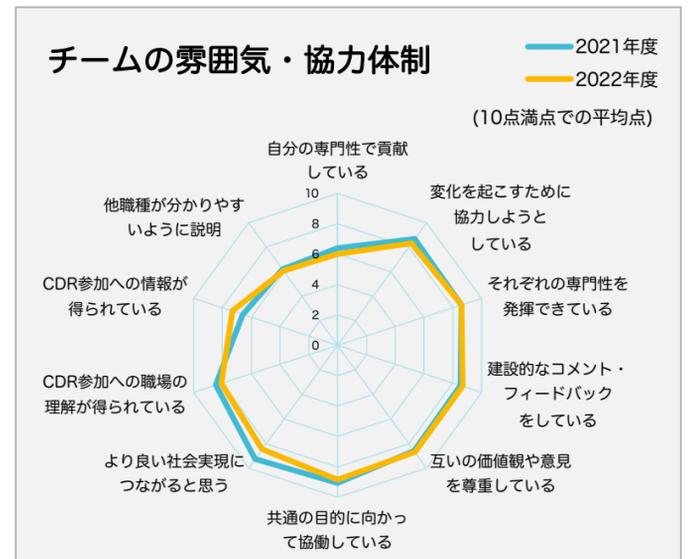
2. CDR会議による事例への理解度について

- 今回最も理解度が高かったのは、「**時間的経過**」でした
- 医学的メカニズム、社会心理的な要因が理解できたと答えている方も多かったです。
- 去年と同様に、全ての点数が6点以上と高めでした。



3. CDR会議の雰囲気について

- 雰囲気でも平均点が高かったのは、「**共通の目的に向かって協働している**」でした
- 建設的なフィードバック・互いの価値観や意見を尊重しているという点数も高かったです
- 去年と同様に、全ての点数が6点以上と高めでした。



【良いところ・大変なところ・今後への声】

- 多職種が「予防可能な子どもの死を予防する」という目的を共有し、各々の立場や専門性に立って、自由に発言できる空気がある
- 組織ごとに考え方が違うという理解が得られた
- 概観検証に参加しているが、ケースが多いと議論する時間が足りないと感じる
- 個人情報保護の壁があり、結果として導き出される予防策だけでは一般化しインパクトに欠ける。国民への啓蒙、啓発のためには、より臨場感のある事例の例示が必要ではないか？
- 概観検証以降に、予防策をメンバー議論できる十分な時間が必要。
- 検証には時間と議論が必要であり、そのための調整は大変
- 予防策をより具体的に、実現にむけていくために、テーマごとの分科会を立ち上げての議論や活動ができるといい。
- CDRをより良い事業とするために法整備が必要

今後もご協力のほど、よろしく申し上げます！！

CDR

実施状況 アンケート

2022年度 【自治体D】

いつもCDR活動にご協力いただき、ありがとうございます。

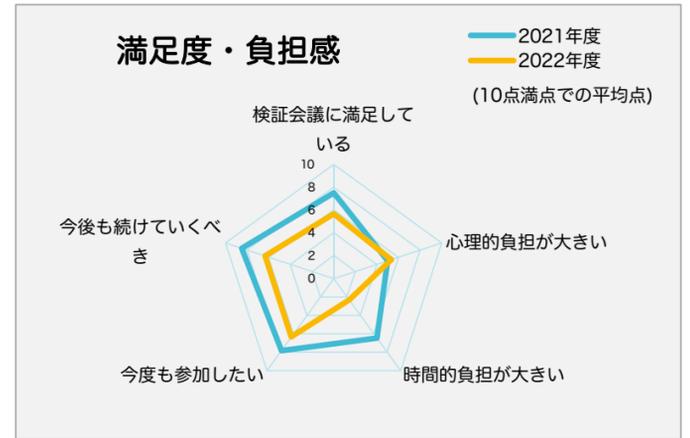
今回の参加者【3名】よりご回答をいただきました

※2021年度のアンケートの回答（7名）と比較しています

厚労科研沼口班（わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究）にて
2023年3月作成

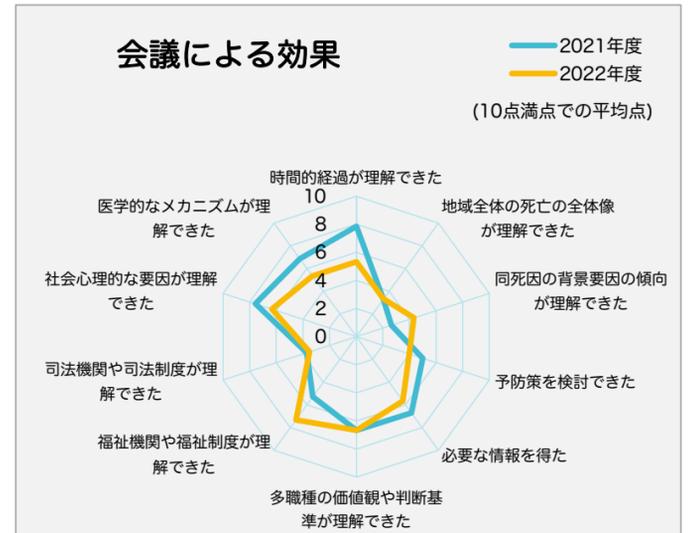
1. CDR会議の満足度や負担感について

- 今後も続けていくべき・今後も参加したいが、最も高い点数でした
- アンケートに回答してくださった皆様の満足度は去年より少し低かったです（平均 5.7点）
- 時間的負担感の点数が昨年度よりも低くなりました



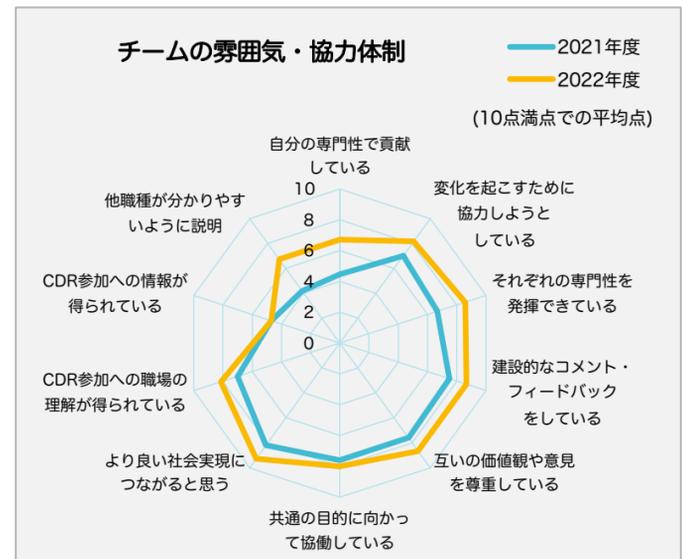
2. CDR会議による事例への理解度について

- 今回最も理解度が高かったのは、「福祉機関や福祉制度が理解できた」でした
- 社会心理的な要因が理解できたと答えている方も多かったです。
- 司法機関や司法制度、地域全体像への理解も、これからさらに深めたいですね



3. CDR会議の雰囲気について

- 雰囲気でも平均点が高かったのは、「それぞれの専門性を発揮できている」でした
- 共通の目的に向かった協働、建設的なフィードバック・互いの価値観や意見を尊重しているという点数も高かったです
- 全体的に、全ての項目で去年より高くなっています



【良いところ・大変なところの声】

- 関係機関が情報提供や検証会議への参加に協力的であったことがよかった
- 内因死の検証の場合、おとしどころが難しいと思った
- まず、亡くなった時点でご両親にCDRの説明は困難であること。自殺や不審死の場合、ご両親に説明しても、同意が得られない、というか、回答すらもらえない場合が多いです
- 本当に検証が必要な事例はほとんど承諾が得られない点から、CDRを進めていくには、両親の同意なしに進めていく必要がある
- もっとCDRを社会に認知してもらうことが必要だと思う
- 検証そのものはとても意味があることだと思うので、医療現場の負担が少ない形で進めていけるのが理想。思いだけでは、進まないと思う。

今後ご協力のほど、よろしくお願いします！！

CDR

実施状況 アンケート

2022年度 【自治体E】

いつもCDR活動にご協力いただき、ありがとうございます。

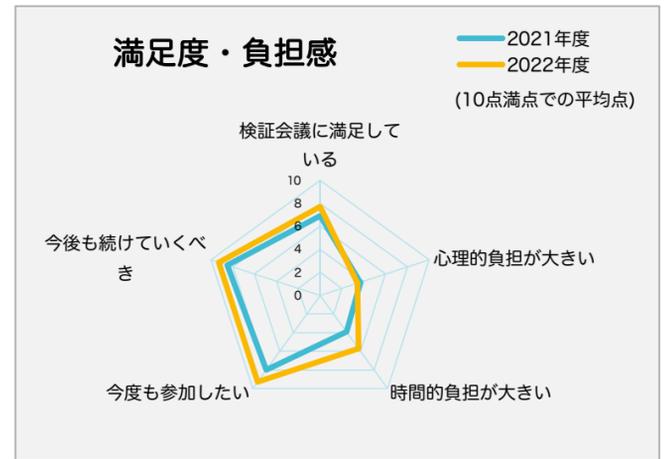
今回の参加者【7名】よりご回答をいただきました

※2021年度のアンケートの回答（14名）と比較しています

厚労科研沼口班（わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究）にて
2023年3月作成

1. CDR会議の満足度や負担感について

- アンケートに回答してくださった皆様の満足度はとても高かったです（平均 7.7点）
- 今度も続けていく意義や参加意欲を感じている方も、非常に多いです
- 昨年度よりも全体的に点数が高くなっていました



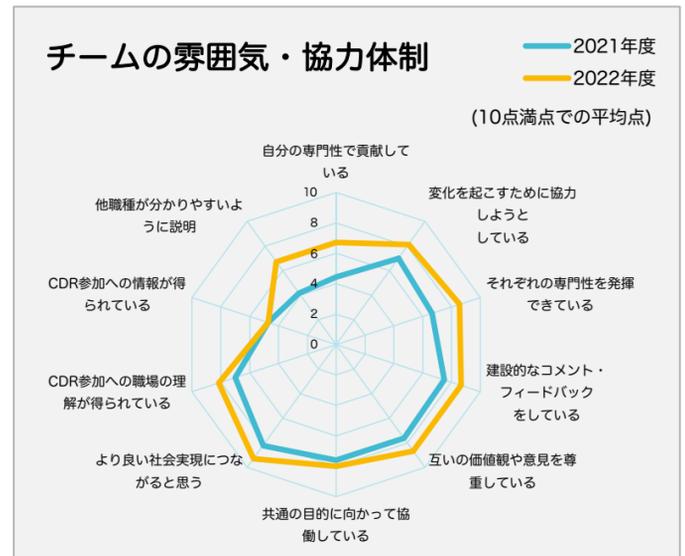
2. CDR会議による事例への理解度について

- 理解度が高かったのは、「多職種の価値観や判断基準」でした
- 時間的経過、社会心理的要因への理解が進んだと答えている方も多かったです。
- 地域内の背景要因の傾向や全体像への理解も、これからさらに深めたいですね



3. CDR会議の雰囲気について

- 雰囲気でも平均点が高かったのは、「より良い社会実現につながると思う」でした
- 建設的なフィードバック・お互いの価値観や意見を尊重しているという点数も高かったです
- 他職種がわかりやすい説明の点数が去年より高くなっています



【良いところ・大変なところ・今後への声】

- 個別ケースについての情報が、どのケースについての情報なのかわかりにくいところがありました
- ハイブリッドでカメラワークを意識したため、現地会場で全員が前向きに座って検証を行ったおかげで、顔を見て話し合いをすることが困難であった。
- 検証中、医師が発言することがおおく、医師以外からの自発的な発言をいただくことが殆どできなかった。
- 事前資料の作成を道庁に任せっぱなしになっていたが、検証の進行に関しての別資料を作成する必要がある。司会（ファシリテーター）は、多職種の全員からの意見を均等に聞くためのトレーニングをする必要がある。現在検証結果は道庁がまとめることになっているが、詳細な意図が伝わらない可能性があり、検証結果をまとめる方法をもう少し改良したほうが良いと思う。
- 家族の病気に対する考え方や思いを知ることができた
- 会議時間が長く、やや負担があります。時間的に厳しい場合には自身の専門性に関連する部分だけ参加するという形にできればと思うのですが、それでも大丈夫でしょうか？

今後ご協力のほど、よろしくお願いいたします！！